

寺報 善 巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月 0765(65)0055

寺
ごよみ
十月

一日 お講・板屋
一六日 お講・三日市

報恩講

一九日 午後一時 遠夜
午後七時 初夜
二〇日 午前七時 晨朝
午前十時 日中
午後一時 満座
布教 川崎順正師

二三日 真照寺・報恩講
二四日 田家・窪野・経田・
柳沢報恩講
二五日 東狐・青木・報恩講
二六日 柳沢報恩講
二七日 柳沢報恩講
二八日 柳沢報恩講
二九日 新浜・飯野・報恩講
三一日 板屋・報恩講



みほとけとみなさまのおかげにより…雪ん子劇団・8月公演
「うちのとうちゃん…」より

十月十九・二十日
報 恩 講

布教 川崎順正師

十一月四日・五日
空 華 忌

講話 利井明弘師

善巧寺のホンコサマは、毎年十月十九日二十日ときまっています。何時頃からこのように決まっていますか分りません。十月の半ばになると門徒の方々は「寺のホンコサマも近づいたね」と時候挨拶にもホンコサマを用います。此の言葉は、私達お互いにとって昔から親しみ深い、身近い、呼びなれた言葉であって、今さらその故事来歴やら、説明、解釈を文字に表現するのがむしろ滑稽なくらいです。本当に皆んなで、ホンコサマを待ち兼ねています。これは善巧寺だけではなく、富山県の東西本願寺の寺院では一斉にホンコサマがつとめられ、門徒の方々の大集合があり、巷には僧侶の往来が目立つようになり、県全体がホンコサマの季節に入ります。いわば、宗教の季節に入ります。越中が真宗王国といわれるのも無理ないことで、これは越中の土地、土俗が、長年の間、培って来た身についたもの。本当に有難く思わねばなりません。このことを有難いと感謝することから、すべてが発するのです。十日程前になると、善巧寺では「お道具みがき」があります。十人位の男女が本堂に集って、お内陣の五具足とか輪灯を取りはずして、一年分の塵埃を丁寧に掃除するのです。

ホンコサマ

普段何気なく見落していますが、見違えたかのようにお道具がピカピカになるのです。お掃除をしながら、話し合われるのは昔の話です。一緒に道具みがきをしていた故人の誰れかれの信心深かった人柄が何時も話題になり、楽しい有難い一日を過ごすのです。内陣に供えられるお花も、何時もとは違っています。骨組になる大きな松の木の手を丁寧に釘で打ちつけて、それに松の葉や菊の花をしきたり通りに取りつけ御開山の前に供えるのです。ホンコサマの前になると期せずして世話人たちが三十人も集まってきて、餅をつく人、料理をつくる人、庭を掃く人と、台所は大変な賑わいです。

こうして当日を迎え、内山・若栗・荻生・三田市・生地からゴエハンたちをお迎えしておつとめがはじまります。善巧寺は、ホンコサマのいわば幕開きに当るので、ゴエハンたちも久しぶりの顔合せで、いつもより緊張して読経なさっているような気がします。そして法要が無事終了、お説教聴聞がすむとお参りの方々全員「恩徳讃」を唱えます。ニョライゲイヒノ オンドクハミヲコニシテモ ホウズベシ 私達は、親鸞聖人のみ教を身に粉にしても報じようとい心を新たにするので。

住職 雪山 俊之



「本典一一滴録」より

明教院の心を味わう①

行信教校教授 利井明弘師

恒例の一泊聞法に、今年も寄せていただきました。このたびは、弟の病気で門徒の皆様にも、いろいろご心配、ご迷惑をおかけしたことを思います。まあ無事に退院しまして、私もホッとしておるところでございます。

今回の法座では、明教院僧鎔師の講録であります「本典一一滴録」から「総序」の御文を味わってみようと思います。

これは、親鸞聖人の著わされた「教行信証」の注釈本であります。昔はこの本典というものは、簡単に読ませていただくなんてことはなかったんです。師匠から弟子へ、書写を許されて、ようやく拝見できるというもので、一般には公開されていなかったんです。ですから昔の学匠方でも、「教行信証」を直接釈しておられる方は少ないんです。普通は「六要鈔」という存覚上人が著わされた「教

して、その方は左脇腹に三四寸の穴があり、その穴より光明を放つて、夜になるとその光でもって聖教を読まれ、時にはそこからハラワタを取り出して洗われた、とあります。普通の人ならこんなことは出来ないが、聖者の不可思議であらうと僧鎔師はおっしゃる。

そして、いまこれに思うに、親鸞聖人のハラワタはこの一部六巻の「教行信証」であって、そのハラワタを直説頂だいすることは、よくよくの因縁とよるこはねばならないとおっしゃっています。

この因縁を私も感じましてね、僧鎔師はこの善巧寺のお方ですね、大切なものはハラワタのようなものだとおっしゃり、仏図澄という

ひそかにおもんみれば

じつはこの注釈は、当時のご門主、文如上人のご命によってご講義なさったものの講録なんです。僧鎔師五十歳の折、安永二年十一月十八日から翌年三月十五日までかけて講義され、それをまとめた「秘書」であると記録にのこっています。

この第二席目に出ていることなのですが、この「教行信証」は、親鸞聖人の腸胃、つまりハラワタだとおっしゃっております。

昔、中国に仏図澄（ふとちよう）というえらいお坊さんがおられま

僧鎔師の、ハラワタの例えて味わったわけですが、このあたりで総序の本文に入ってみようと思います。

まずはじめは「ひそかにおもんみれば（窃以）」という言葉です。僧鎔師はこれを「発端之詞」といっておられます。これはまあ、拝啓とか、前略とか、そういうはじめの言葉というほどのことではありますが、この言葉の中にも味わいがありまして、鮮妙は、ひそかにとは「卑謙之詞」と申しております。

この心は、いうことも出来ないわたくしが、ということでありまして、おもんみればとは「そんなわたしが申させていただく」ということであります。

つまり、否定と肯定が二文字に込められているわけです。しかし、考えてみますと、今は「ひそかに」なんて心、まったくありません。なにもかもが、わかつてる、わかつてる、わかつてるの世界です。でも、ほんとにそうでしょうか。全部わかつてるような気がしているけど、本当にわかつてるんでしょうか。そんなことを、この「ひそかに」という言葉は、わたしに問いかけているような気がいたします。

理性、知性、金銭万能の時代のようにですが、それでいいんだろう

寺
こよみ

十一月

一日 お講・愛本新
二日 順昌寺・報恩講

四日 空華忌
午後七時 初夜
五日 午前七時 晨朝
午前十時 日中
午後一時 満座
記念講話 利井明弘師

七日 上野・報恩講
八日 発願寺・報恩講
九日 光せん寺・報恩講

一日 常照寺・報恩講
二日 魚津・報恩講
三日 出・報恩講

四日 中新・報恩講
五日 お講・浦山新
六日 中陣・報恩講

七日 一八日 栃沢・報恩講
二二日 浦山新・報恩講
二四日 二五日 石田・報恩講

二八日

か、そのへんを、みなさんと共に考え直してみなくては、と思うことであります。

夏の一泊聞法より。
録音テープの貸し出しもしてあります。いつでもどうぞ。

身近な話題を仏語に

病院のベッドで校正

きょう生還と出版祝う会

作品と人

「続々・お茶の間説法」を出版した

雪山
隆弘さん



生活、文化活動の信案「よこそ」を染め抜いたのれんから顔をのぞかせる雪山さん

「今度の本は、一生で最も思い出深いものになるでしょう。だって、編集途中に直腸ガンとわかって、四月二十七日に東京・国立がんセンターへ入院。翌日の二十八日に病院のベッドであごかきを書き、術後に鼻に管を差し込みながら校正したからです。でも、今は、無事に出版を終え、現代医学によって「生かされて生きる喜び」をかみしめています」。生死にかかわる体験を、これいふ口ぐいよ。

五十四年の「お茶の間説法」、五十八年の「続・お茶の間説法」に続く「お茶の間シリーズ」三弾目。すべて身近な出来事や自分自身のしくじり話から発案し、「俗談平語」で、身近な話題を仏語に結びつけている。

巻頭で読売新聞富山ワイ
クリ一面に、六十年十一月十
三日から四回にわたって連載
されたひとを載せ、本人
のアロフィルについて。

つて、東京・国立がへんセンタ
ーへ。五月十七日に六時間の
手術を受けた。術前は、アス
ファルトのすき間からびる
雑草に「よつそ」と手を合

雪山さんには宇奈月町の善巧寺を開放して地元の小学生たちのための教室「雪ん子劇場」や「宇奈月夢を語る会」を主宰し、活発な文化活動に取り組んでいる。

山さんが仰天した薬病の兆候が現れたのは三月。一寺の職業病が原稿の書き過ぎて、痔にもなったがなあと軽い筆を屈曲している。そんな雪

手術は成功。退院後、雪山さんの人生観は大きく変わった。「今まで、おじいちゃんやおばあちゃんに『生』の話をしていたが、まったく実感

気持ち、近のお医者に診て
 もらったところ、これがなん
 と直腸ポリープ。それならと
 富山医業大病院で手術でもと
 出かてみると、直腸カイヨ
 ウとの診断。病名の「転」で
 不思議に思ってたし、聞い
 たところ、かなり進んだガン
 だと言われた。

もうっしょん。思い切
 りなかつた。

これからは一
 緒になつて老
 人の心の問題
 を考えるビハ
 ーラ運動がで
 きそう」と語
 る。

きょう二十一日、女優の浜
 美枝さん、プロボウラーの須
 田孝二さん、お二人は、

続々お参
 り

(読売新聞七月二十一日号より)

圖 6-1-1

张其成



昭和十五年七月生まれ。早大文学部卒。学生時代も含めて十五年間、放送、演劇界で活躍。その後、十年間のジャ・ナリスト生活を終えて、四十八年に本願寺僧職を受頭。妻玲子さんと一緒に、教化活動の一環として「雪ん子劇団」などを主宰する。自坊は宇奈月町浦山四九七

法輪

雪山 隆弘

「暮らしの手帖」という雑誌を、存じだろうか。かしい奥さんと、ダメなメーカーを教育するための雑誌で、広告は一切なし。だから

らヒモ付きにならない。だから恐れるものもない、日本に一つしかない雑誌だ。編集長はかつて花森安治さんだった。私が記者をしていたころにはずいぶんかわいられて、取材をしたとき、寄稿したりした。わずかに二、三枚の原稿だが、大新聞の名論説委員が、五回も書き直しをせられて、あげくにボツになったという

話も残っているほど厳しい
編集長だった。
私が寺に帰ってから、も時
□ ■ □ ■
いうこと

□ ■ □ ■
いうことを聞く

やかでない発言をする。
「しかしなあ、寺の搾取
は、ちゃんと心のつるおい
を聞く
□ ■ □ □ ■
というお返しをしとるから
許せる。が、税金というや
つは、それがないのでケシ
カラン」などこのたまう。

七年前か、亡くなるまで、社長の大橋鎮子さんにいったぞうだ。「大橋君。僕は死んでも行くところがない。だから僕は、君に移る。君の中に入り込む。だから、君は困ったことや、どうしていいかわからないことがあったら、自分に聞け」大橋さんはどんなときで

も、自分に問い掛け、心を聞き、いま森さんがいたらどうするか、と考えながら、あの「暮しの手帖」を発行しているという。

人は、だれのいうことを聞くかで、その人の値打ちが決まる。この「いうこと」を聞くというのが「南無」である。大橋さんの場合は「南無花森編集長」だ。素晴らしいと思う。

ところで、あなたは、
 だれのいうことを聞いて生
 きているのか。いつでも
 どころでも、どんなときでも
 その人のいうことなる聞く
 というものを持っているの
 か。
 一度、自分に聞いてみま
 せんか。
 (本願寺派善巧寺副住職・
 宇奈月町)
 北日本新聞夕刊より

北日本新聞夕刊より

雪ん子

今秋数えの10才

ことばの教室「雪ん子劇団」は
今秋十一月二十五日、数え年十歳
の誕生日を迎えます。

みなさんのおかげですね。うれ
しいかぎりです。

夏の公演には、宇奈月中央公民
館に三百人のお客様が足を運んで
下さいました。雪ん子のお父さん
やお母さん、おじいちゃんやおば
あちゃん、それに親戚の人。そし
て、学校の校長先生や町の皆さん
さらに、一日里親の皆さんや、黒
部の劇団フロンティアの皆さんも
四本の劇を上演しましたが、り
っぱな出来ばえて、すばらしかつ
たです。

そして今夏は、雪ん子はタレン
トとして、TVやモデルにもお誘
いがあつたり、地域文化の交流フ
ォーラムのパフォーマンスに出演
したり…。

秋には富山の教育文化センター
で行われる子供フェスティバルに
出演、さらに、砺波、富山、黒部
の小学校で招待公演が予定されて
いるなど、活躍の場はどんどん広
がってきています。



こどものまつり



うちのとうちゃん



ながまたち



ちづる

きびしくて楽しい合宿
夏の公演のために、毎年、夏休
みの後半に雪ん子はお寺で合宿を
します。一年から六年まで、全員
が本堂で一泊二日。学校ではでき
ない体験です。(写真上)
食事時にはお母さんがやってき
て用意をして下さいます。子供た
ちはただひたすら練習練習…。
「コラッソ」とコワイ男先生
の声も飛びます。やさしい女先生
のまなざしもあります。今年はそ
れにKNBのTVカメラの目もあ
りました。



特別
雪ん子月駐在員
中 宣子

地域文化交流の輪
九月三日、入善のコスモホール
で開かれた「とやまコンパス計
画フォーラム」というややこしい
会に雪ん子も参加しました。
要するに地域文化の交流をしよ
うというもので、黒部の劇団フロ
ンティアと、大布施盆踊り保存会
のみなさんと一緒に、愛本の大蛇
伝説のパフォーマンス。
ホール前庭で雪ん子の四年生の
女の子がかわいい子役で寸劇のお手
伝いをしました。(写真右)



秋かぞえで10才 お誕生日祝いを待ってまーす！

赤光白光

八月十五日の
旧盆に、寺の境
内で「こども盆
踊り大会」を催
すようになって
十二年になる。

大イチョウの木の下で、三
百個ほどのチウウチンをさ
げて、仏壇、仏壇、日校O
Bたちが手づくりの夜店を
出して大にぎわい。雨でも
本堂というドームがあるか
ら中止になったことがない
▼踊りの方は「しんらん音
頭」にはじまり「法輪音頭」
で終わるのは十二年間変わ
りがないが、その間に入る
踊りがいろいろあるあつて：
「こどもソーラン節」これ
はひと汗かくのにいい。
「サンサン音頭」お日さま
ありがたうと手話で踊る。
このあたりがわが寺のスタ
ンダードナンバーとなつて
いる▼で、さらに毎年、新
曲を二、三曲やることにし
ているのだが、これは子供
がとびつくものばかりでテ
レビの人気番組シリーズ。
「オバQ音頭」の古典？か
ら「怪物クン音頭」「アラ
レちゃん音頭」「サミアド
ん音頭」「クックロビン音
頭」となれば、見物の大人
はナンノコッチャという感
じ。さらには時代を反映し
たきわもので「UFO音頭」
「パンダ音頭」「エリマキ

北 日 本 新 聞



宇奈月 雪ん子劇団

本番間近、練習に熱

公28日 演 10年目迎え最も充実

宇奈月町浦山の児童劇団「雪ん子劇団」は今年で十年目を迎えた。今年は団員の数が六十人となり、これまでに比べて最も充実。最近、二十八日の夏の定期公演を控えて連日きびしい練習を続けている。

劇団は、善巧寺の雪山降弘さん（右）、玲子さん（左）夫妻が主宰。児童劇を通じて身体とこころの訓練を積み、明るく伸び伸びとした、表現力豊かな子供たちを育てるを目標に五十四年十一月に発足した。団員はすべて浦山小児童。ふたばは、寺の本堂に週一回練習に力が入る雪ん子劇団の手供たち。

集まって練習に励んでいる。五十七年春から町中央公民館で春、夏の定期公演を続け、二十八日の公演が十四回目となる。このほか、町青年祭、町文化祭、県こどもフェスティバルにも毎年参加し、県内各地の小学校から招待を受け、ミュージカルやこころを遊ぶを主体に、手話や地元の方言を取り入れたりするユニークな劇づくりに挑戦している。

二十八日は、劇団創立以来のロングランを続けている手話ミュージカル「うちの子ちゃんえらいんだ、ぬいぐるみ劇の「なかつた」、民話劇「ちづる」、ミュージカル「こどものまつり」を上演する。こころは、毎日午後一時から四時間の練習公演が近づくにつれて練習に熱が入ってきており、雪山さんのきびしい声が本堂に響いてる。



雪ん子の夢を育てる会

会長は有馬文義さんに

1988年(昭和63年)8月29日

300人の観客にわく
「雪ん子劇団」の夏公演
演劇で子どもと会える、これぞ子供たちを育てよう、結成されてきた「雪ん子劇団」が、秋、十周年を迎える。下新川郡宇奈月浦山、善巧寺の雪山降弘さんと妻玲さん夫妻が主宰し、同寺を拠点に活動が続けられてきた。現在の団員は六十人。この十年目を迎える二十八日、同町の中央公民館で定期公演が開催された。団員総出演による公演に詰めかけた約二百人の観客は大いにわく、演劇を手供たちといきいきと楽しんでいた。

この日上演されたのは「うちの子ちゃんえらいんだ」と「こどものまつり」の二本のミュージカル、ぬいぐるみ劇「なかつた」、民話劇「ちづる」の四作。十周年大演しは座敷は六十回上演本数は百十五本を越えた。町内の教会や青年祭での上演のほか県内外の舞台で上演



結成後十年間上演してきたミュージカル「うちの子ちゃんえらいんだ」のラストシーン
下新川郡宇奈月浦山の町中央公民館で

合宿に公演に TVにモデルに...

ガンバル



TV出演やモデルにも
上の記事は県民の広報に、若はんが書いたものですが、そのカット写真は雪ん子の女の子。ユカタを着て、かわいいうモデルさんでした。右の写真は六年の中真弓さん。富山TVの「はいお昼です」のレポーターに出演。愛本の山本家を紹介したり、雪ん子やお寺のPRもしました。さらに十月三日からの富山TVには雪ん子の太田由紀子さんと倉井秀延君と、有馬文義、秀子さん夫婦が、知事選PRのCFに出演いたします。

売れっ子雪ん子

ありましたありましたー！ かるかも音頭。でも田舎じや東京ほどさかいでないの、一回だけに、ここ数年の社会問題を反映した「ふれあい音頭」と「かまて音頭」の二曲を、今年もたつぷり踊った。「おん年、九歳、しんらんさまは、もなかなかいが、かまてかまて、かまてつてくれなや、グレちゃろ、なんてカゲキな踊りも、またいいものだ。

本願寺新報より

生還と出版を祝う会

7月21日

「雪山隆弘の生還と出版を祝う会」が、七月二十一日、東京銀座の東急ホテルで開かれました。若院の退院と、その病床で仕上げた「続々お茶の間説法」の出版と、合わせて祝ってやろうと、ジャーナリスト雪山の育ての親の山路昭平産経新聞重役と、友人の彫刻家岩城信嘉さん、浜美枝さん、須田開代子さんの四人が発起人となって開いて下さったもので、会場には若院の知人、友人、先輩らそうそうたる方々およそ百人が相集い、祝盃をあげて下さいました。看板は岩城さん。司会は浜さんと須田さんが。



まずは発起人代表で山路さん。「手術の当日うかがうと、控室で、奥さんが腕に雪山の時計と自分の時計と、数珠をかけて、彼の本を読んでいる。こうしていると彼というような気がして……。いい奥さんを持ったものだと感じました。雪山、またがんばって、本を書け」



「私は退院のお祝いの方です。雪山さんよかったですね。七時間にわたる大手術でしたが、うまくゆきました。これからは、四、五年、アフターケアで私が責任持つて診させていただきます」



出版社百華苑、清水秀雄社長。

「私のいとこの小林秀雄が生前仏教書はいつまでも入門書でいいわかりやすく書いたものを出せ、とよくいってました。雪山さんの本はまさにそれです。三冊目もよく出来ました。四冊目もうすぐです」。



カンバイノ 生還を元東大病院長、石田正統氏夫人、万里子さんに。そして出版の方を、暮しの手帖の大橋鎮子社長に。素晴らしい女性二人にお願いしました。



「彼が子供の頃に、一緒にラジオのドラマをよくやりました。こ

JLBC誌より



本誌の執筆者の1人である雪山隆弘さんは直腸がんで国立がんセンターに入院していましたが、手術に成功、このほど無事退院されました。また、時間じくして「続々お茶の間説法」(百華苑刊)を出版。この2つを祝う会が、7月21日、東京の銀座東急ホテルにおいてなごやかに開かれました。

▲女優の浜美枝さん、JLBCの須田代表は司会でお祝いを。



の五月、新橋演舞場で芝居をしていたら、隣りのがんセンターから彼の声。びっくりしましたねえ。」



画をみていて、あっ、雪山ノと声を上げた。似てるんです主人公に。どうしてるかなあと思ったら、こんなことしてましたか」

プロボウラー 藤原清子さん「下高井戸のスターレーンで、須田さんと私と、雪山さんと記者仲間の人たちとよく投げました。いまはJLBCの機関誌にも執筆者。お説教も時々。雪山さん、病後は、適度の運動を」



「テアトルエコーにいた頃、彼が新聞記者でやってきて、舞台の小道具を全部買い占めていった。おもしろい記者でした。こないだ、ラストエンペラーという映

654

九月十五日(木) 敬老の日 曇
此の「住職日記」を寺報に書き
初めてから今日で四十九回になる
平々凡々なる身辺雑記を公表する
のは気が引けるが、我慢して頂き
たい。考えて見ると、私の行動半
径は極めて限られており、年を累
ねるに従って法務以外に寺から外
に出ることも段々少なくなる。殊
に此の九月など手帖を見ても法務
で外出の日が一日しか無い。そう
なると、ゴルフをやるでなく絵を
描くでなく無趣味の私は自然部屋
に閉じ籠る以外にない。十畳の応
接室兼用の書斎にも骨董品の軸や
陶器があるわけではなく、門徒であ
る故佐々木大樹氏から寄贈された
彫刻が一つ飾ってあるだけだ。部



映画監督の松林宗恵さん

「雪山君とは昨年暮に、彼の兄
貴とフリープロデューサーの藤岡
和賀夫氏と、鴨なべをつつきまし
た。私はお兄さんの感化をうけ
ている方なんですが、だいたい利
井家というのは、すばらしいもの
を持っている。血統だろうか」
「ビジュアル80の石黒光」社長。
「雪山さんとは、見るお経、仏



18
32
4
り2
7

屋にはテレビは無い。目が疲れる
ようになったことと、本来、今日
のテレビの騒がしさが好きでない
からだ。それでもプロ野球放送は、
毎日のようにラジオで
聞いている。
正確に数えたことは
無いが、本が三千冊ほ
ど一方の壁面全体に並
べてある。趣味といえ
ば興に応じて気の向く
ままその一冊を取り出
して読み返すことであ
ろう。ベストセラーの新刊を求め
るということは此処数年やってい
ない。
先日、かかりつけの医者に私の
日常をありのままに話したら「そ

住職日記



んな生活を続けていたら老化が進
んで今にも寝たきり老人になるぞ」
と脅された。血圧は目下のところ
正常で心配ないが、足の筋肉が極
端に弱くなっている。
病状の進むのを防ぐ
方法は、毎日散歩を
するがいいといわれ
た。散歩なら近辺沢
山歩くところがある。
幸い、今日は曇り日
で、日除けも要らな
い。ズックをはき、
ズボンをはき、セーター一枚の姿
でステッキ一本持って出かけた。
裏の山裾まで歩いて見ようという
積りだ。自分のペースで、無理をせ
ずに歩けということだったので今

典アニメで一緒に仕事をしていま
すが、じつに楽しい。私も仏教の
イロハを聞きながら、現代に欠け
ているのはこれだと思ふようにな
ってきましてよ」
北陸放送の金森千栄子さん。



「隣りの富山から、時々遊びに
くる男がいる。風のような、不
思議な男で何ものかと思っていまし
たが、今日のパーティーで、その正
体がよくわかったみたい。」

門徒総代の鬼原勝次さん。



「遠い東京で入院しておる若院
が、こんなにたくさん素晴しい
方々のあたたかいお心につつま
れていたのかと、うれしく思いま
した。ありがとうございます。」

◇
本当にありがとうございます。
みなさんにお会いできて、こんな
にうれしいことはありません。
おかげさまで、この宴のあと、
二カ月が過ぎましたが、体調すこ

日は往復一時間ということにした。
電車路を渡って一面稲穂の垂れた
水田の間の農道を南に向う。久し
ぶりに出た私には、周囲の景観が
一変しているのに先ず目を見はる
思いである。新しい保育所が立っ
ている。宇奈月の新設ホテルの従
業員宿泊所が出来ている。病院が
新しく営業をはじめている。そし
て、私の歩いている農道は草一本
生えてないアスファルト道である。
途中休憩をいれて往復一時間、十
時半に帰る。これから毎日続ける
積りだが、果して実行出来るかと
うか。
老体の扱へかねたる 蜻蛉かな
送電線 稲穂の上を奥東に

寺 ごよみ

十二月

- 一日 お講・下立愛本
二日 中ノ口・報恩講
三日 愛本新・報恩講
四日 下村・大橋・報恩講
五日 下立愛本・報恩講
六日 赤田・報恩講
七日 内山・報恩講
八日 お講・浦山
九日 音沢・報恩講
十日 除夜の鐘



「若院の報恩講回り休止」

夏の臨時総代会で決まる

お盆の十六日、臨時の総代会が開かれ、十月からはじまる門徒の報恩講まわりについて話し合われ「退院したばかりの若院に半年にわたるホンコ



若はん 休め!

これによって、十月下旬からはじまる門徒の報恩講まわりは、法輪寺と照行寺の両住職二人だけということになりました。少々さびしいホンコさまになりますが、住職、若院の体のことを考えれば無理はできないとして、総代会で申し合わせられたものです。

これに対し、若院からは現在の体調の説明があり「月に二度、がんセンターで診察を受けており、回復はしているものの、過度の疲

があつて阿弥陀如来さま。向かつて右側が親鸞聖人の御厨子（おずし）。そして左側は御代前（ごだいぜん）で、代々の門主の絵像がかけられます。

このたび、板屋の古田みつさんのおかげで、その御代前に、りっぱな蓮如さまをお迎えすることができました。七月の祠堂経で、おひもとき「ご披露させていただきます。古田さんの願いでは「門徒のご法事にも、この蓮如さまにお出ましいただければ……」とのこと。



蓮如さま

寺の本堂の仏さまのおいでになるところを内陣といいます。その内陣の中央には宮殿（くうでん）

労はさけた方がよいとの主治医の意見もあり、休ませてもらうということは、申し分ないことであるけれども、ありがたいこと。しかし、動けないというような事でもないのです。できれば、各地域でホンコまわりの前あたりに、地域ぐるみの報恩講のお座を、総代さんの家なり、公民館で開かせていただければ……とのこと。

各地区でホンコさまの順番を決めたりされる会合があるようでしたら、お早目に寺の方へご連絡下さい。ご相談の上、地区の報恩講のお座を開かせていただきます。

なお、この日は会合のあと、若院の退院祝いの小宴が催され、総代会、白鶴会、花の会、夢を語る会、雪ん子劇団父兄の方々が集まられて、心あたたまるとときを過ごさせていただきました。

煩惱カルタ・本願カルタ

近日発売!

若院の本「続々お茶の間説法」について「煩惱カルタ本願カルタ」が近日、京都の百華苑から発売されます。

たいへんおもしろく、わかりやすく、ほんとうの私と、仏さまの

善巧寺の常例行事

お寺の学校	毎月 一日・十六日
雪ん子劇団	毎月 第四土曜日
夢の会	毎週 月曜四時
花の会	毎月 第二土曜日
お経の会	毎月 第一土曜日

本当の願いを表わしていて、シロウトも高僧も、ウームとうなるほどの力作です。
口絵は富山・城端の岩城信嘉さん。是非読んで下さい。



見るお経

楽しく、美しく、わかりやすい

王舎城の悲劇

仏典物語 第六巻・第七巻

アジャセとタイハッタ

仏典物語 アジャセとタイハッタ

ビデオ仏典物語 第六巻・第七巻

企画制作 本願寺・佛日堂

永久保存用ビデオパッケージ入り

8月1日より各書店同時発売

合 掌

「まめになったがなあ」

「よかったね。無理されんなよ」
会う人ごとに、こんなごあいさつをいただきます。ええ、まあ、なんとか元気に過ごしています。どこかのクルマの広告みたいにくるねるあそぶの毎日です。原稿を書いたり、講演に出たり、雪ん子の子供らと遊んだり。残念ながら、門徒さんのホンコさままわりだけは、ちょっと無理、ということに。

そうですね。いまの私は、住職より年齢が一つ上ぐらいかな？
そう、七十八歳ぐらいの感じですが、術後の体はあまりいいこと聞かないし、死に関しても実感めいたものがあるし、ようやく、お年寄の方々の気持がわかったような……

近頃、七十七のゴエハンと食後に交わす会話がいつもよりはずんだ、門徒のおばあちゃんとおつき合いがなんかとつてもホンワカ、スムーズな感じなんです。たまにはお遊びに。茶でも飲みながら話しませんか。

